

品川区立荏原第一中学校（1年目）

【校長】 黒田 佳昌
【生徒数】 506人
【学級数】 15学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ① フィジカルフィットネス分野の大きな課題は、その難解さである。生理学的な知識が必要なので基本的な概念を指導者が学び、データを活用した実践をより仮説検証していく。次年度は体育の授業で個別最適化、ICT活用の実践を研究発表に向けて吟味する。
- ② ボトムアップの理論はその場の指導だけで終わるものではなく、全ての教育活動の中で実践が可能であり、汎用性が高い理論である。学習指導要領の中でも「主体的・対話的で深い学び」とあるように、スポーツの指導だけでなく、学校全体の取組に波及していくために、来年度は、研究授業を行う中で生徒の意識変容などを検証していく。

【実態・課題】

- ① スポーツを指導する部活動顧問が保健体育科だけでなく、専門性とも違う教員が担う現状の中で育成年代の生徒に適切な頻度でのトレーニングやトレーニングを構築するノウハウが足りないまま顧問をしている現状がある。また、生徒の実態として、運動の得意ではない生徒との二極化が進んでおり、生徒の指導への個別最適化に課題がある。
- ② スポーツ活動が部活動を中心に大変活発な学校である。競技性もあるが指導者のトップダウン型（指示命令）による指導の文化が残るような場面も見受けられる。

目標 生徒、選手が主体のチームビルディング

【成果】

一人1台端末を活用した指導方法の開発
教科横断的な指導方法の開発

- ① GPSで強度を計測することを積み重ねる中で、トレーニングの中でスプリントの本数を自分で意識して取り組んだり、走行距離などを個人内で目標を立てて主体的に取り組んだりする生徒が増えた。また、ICTを活用することでデータの指標を皆で学び合い、フィジカルの基本的な知識を生徒達が学ぶきっかけとなった。
- ② ボトムアップの理論を通じて、部活動の戦術や試合の改善点などを指導者が一方的に指示するのではなく、リーダーを中心とした話し合いの中で意思決定を行い、試合を改善していくという取組が選手達の判断力の向上や意欲の向上に繋がっている部分が多く見られた。体育の授業でも作戦ミーティングなどを生徒達がする中で自分が主体的に参加できたという意識の向上に繋がった。

【取組】

一人1台端末を活用した指導方法の開発
外部人材等と連携した指導方法の開発

- ① GPSを用いて選手の心拍数、走行距離、ダッシュの本数などフィジカルデータを計測して個人内評価ができるようにデータ分析を行った。また、トレーニング指導者が適切な強度、狙った強度でトレーニングができていっているかどうか検証を行った。抽出生徒達は数値が「見える化」していることで実感値と数値でトレーニング目標が立てやすいと感想を述べている。
- ② ボトムアップ理論の第一人者であるボトムアップパーソナル協会の畑喜美夫先生を講師として、ボトムアップ理論の教育現場での具体的な導入方法を校内研修で学んだ。各部活や学活、行事運営などで生徒の話し合いの中から意思決定する取組を通じて対話的な意思決定を生徒主体で行う実践を積み重ねた。

- (1) 一人1台端末を活用した課題解決に向けた授業改善及び個別最適な学びを保証する指導方法の開発
- (4) 外部人材等と連携した指導方法の開発
- (5) 教科横断的な視点や校種間の連携等を踏まえた指導方法の開発

【取組（詳細）】

①「デジタルテクノロジーを活用した個別最適な学びとフィジカルデータ分析による健康促進の取り組み」

一人1台端末を活用した授業改善と個別最適な学びを保証するために、デジタルテクノロジーを積極的に活用した。特に、GPSによるフィジカルデータの分析をタブレットで生徒に行わせることで、健康促進の取り組みを強化した。

【背景】

部活を中心に運動が盛んな学校であるが、教員へのアンケートの中でトレーニングの頻度や強度が生徒達にとって適切なかを悩んでいる教員が多数いたため、エビデンスをベースにして運動強度を適切にコントロールしたり、生徒達自らがフィジカルの数値を端末で見たりすることによって自身のフィジカル面の成長を自分で理解できることをねらいに導入した。

【実施内容】

生徒には、タブレットを用いてGPS機能を活用し、運動時の移動距離や速度、消費カロリーなどのフィジカルデータを記録する課題に取り組んだ。また、これらのデータを用いて、生徒自身の運動状況や健康状態を把握し、改善点を見付けることができるようにした。

【まとめ】

デジタルテクノロジーを活用したアプローチは生徒の関心を高め、学びの効果を向上させることができた。生徒が自己のデータを分析することで、自己評価や目標設定の意識が向上し、自主的な学びへの取り組みが促進された。今後は体育の授業などでも生徒の自己評価の視点に生かしたり、運動の苦手な生徒への達成感やモチベーションに繋がったりしていくことを目指す。

②「ボトムアップ理論を中学校の学級経営や部活動のチーム作りに活用」

外部人材等と連携し、ボトムアップ理論を学級経営や部活動のチームづくりに取り入れた。ボトムアップ理論は、組織内の個々のメンバーが積極的に参加し、自らのアイデアや意見を発信することによって、組織全体の目標達成に貢献するというアプローチである。この理論を体育健康推進校の取り組みに取り入れ、学級経営や部活動における学習環境やチームワークの向上を図るとともに指導方法の開発を行った。

【背景】

従来の学級経営や部活動のチームづくりでは、教師や指導者中心のトップダウンのアプローチが主流であった。しかし、生徒や部員の声や意見を積極的に取り入れることが重要と考え、ボトムアップ理論を導入することとした。

【実施内容】

<学級経営におけるボトムアップ理論の導入>

- ・生徒が定期的なクラスミーティングの場を設け、クラス全体での意見交換や問題解決を行った。
- ・生徒の提案を取り入れたクラスルールや活動計画の策定を行い、生徒が自らのルールに責任をもつことを促した。

<部活動のチームづくりにおけるボトムアップ理論の導入>

- ・部員に自主的な会議やワークショップを開催し、チームの方向性や目標について意見交換を行った。
- ・部員等が自らリーダーシップを発揮し、チーム内での役割分担やコミュニケーションの改善を行うための取り組みを支援した。

【まとめ】

ボトムアップ理論を学級経営や部活動のチームづくりに取り入れることで、生徒や部員の主体性や自己責任の意識が高まり、よりよい学習環境やチームワークが形成されることが確認された。今後もこの取り組みを継続し、実践を重ねていくことで効果を多角的に検証していく。